

## 地下鉄・バス共通カード乗車券（マリンカード）について

地下鉄・バス共通カード乗車券（マリンカード）は、平成4年4月の運賃改定の際のサービス向上策の一環として同年3月から発売し、これまでご利用いただけてまいりました。しかしながら、ICカードが普及する中で今後の取扱いについて検討した結果、次により発売を終了し自動改札機での使用を終了することとします。

### 1 経過

#### (1) ICカード導入に伴う投資

平成19年3月にサービスを開始したICカード（PASMO）は、1枚の乗車券で首都圏の鉄道やバスをご利用いただけるほか、様々な機能を持つ利便性の高いカードとして99社局の鉄道バス事業者で導入に取り組み、本市交通局は平成20年度までに地下鉄・バス事業合計で約51億円の投資を行います。

#### (2) 鉄道共通カード乗車券（パスネット）の発売終了等

平成12年から関東の22の鉄道事業者で導入されていたパスネットは、マリンカードと同種類の磁気カードですが、ICカードの普及に伴い平成20年1月10日（木）をもって発売終了、平成20年3月14日（金）をもって改札機での使用終了となります。

### 2 マリンカードの取扱いについて

マリンカードについては、パスネットにあわせて、次の理由により発売終了、改札機での使用終了とします。

#### (1) 他の鉄道事業者への影響等

マリンカードとパスネットは同一の改札機システムで運用しているため、パスネットが使用できなくなる3月15日（土）以降ブルーラインでマリンカードを使用可能とすると、同時にパスネットも使用できるようになります。この場合、他の21の鉄道事業者ではパスネットの使用を停止することから、お客様の混乱や他の鉄道事業者との運賃精算時のトラブルなどが発生することが予測されます。

#### (2) 駅務機器の保守経費の負担

マリンカードは、改札機で残額の読み取りや書き込みなどをする必要があり、ICカードと比較して維持管理費の負担が大きくなります。

#### (3) グリーンラインの設備内容

平成20年3月30日（日）に開業するグリーンラインは、ICカードの普及に備え積極的な利用促進を目指した設備内容としており、マリンカードは利用できません。

### 3 ICカードの導入に伴うサービスの向上

PASMOには、マリンカードのようなプレミアムは付加されておりません。そのため、お客様へのサービス向上の観点から次のサービスを積極的に導入します。

#### (1) 定期券発売サービスの拡充

ア PASMO定期券が地下鉄全駅で購入できます。

イ これまで2社線までしか購入できなかった他鉄道との連絡定期券について、1枚のPASMOで3社線まで購入できるようにします。(3月15日(土)から)

ウ 他鉄道との連絡定期券の乗り継ぎ駅を2駅(関内駅、新横浜駅)追加し7駅にします。(3月15日(土)から7駅、グリーンライン開業後は中山駅、日吉駅を加え9駅)

#### (2) クレジットカードを活用したオートチャージサービスの実施

#### (3) 定期券のクレジットカード決済の実施検討

#### (4) 学習塾への通学定期券の認定

### 4 今後の予定

#### (1) マリンカードの発売終了について

平成20年2月21日(木)の終電をもって発売を終了します。

#### (2) マリンカードの地下鉄自動改札機での使用終了について

地下鉄については、平成20年3月14日(金)の終電をもって、パスネット同様自動改札機での使用を終了します。

なお、バスについては、残額のあるカードは引き続き乗車時に磁気カードとして使用することができます。

#### (3) 地下鉄自動改札機での使用終了後の対応について

ア 残額のあるマリンカードについては、ブルーラインの各駅では3月15日(土)以降も自動券売機で普通乗車券が購入できるほか、自動精算機や駅案内所での精算の際に使用できます。

イ グリーンラインでは、開業後、駅案内所の精算時のみ使用できます。

ウ 払い戻しについては、3月15日(土)以降、使用可能残額からプレミアム額を差し引いた額(発売額から使用済額を差し引いた額)を手数料なしで払い戻します。